

風疹が流行しています

首都圏を中心に風疹が流行しています。風疹はウイルスによる感染症です。基本的には予後良好な疾患ですが、重篤な合併症を併発することもあります。また、妊娠20週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、胎児も感染し、先天性風疹症候群の児（眼、耳、心臓に障害）が生まれる可能性があります。風疹はワクチンで予防可能な感染症です。男女とも風疹（含有）ワクチンを接種し（女性は妊娠中の接種は不可のため、妊娠前に接種）、感染を予防し流行を抑制することが重要です。

さて、近年の風疹患者の中心は小児から成人へと変化しています（図1）。30代後半以降の男性・50代後半以降の女性は、定期予防接種制度では、風疹ワクチンを接種していません（図2）。成人でも、風疹に罹ったことがなく、風疹含有ワクチンを受けていないか、あるいは接種歴が不明の場合、特に30～50代の男性では、早めにワクチンを接種することが推奨されています。

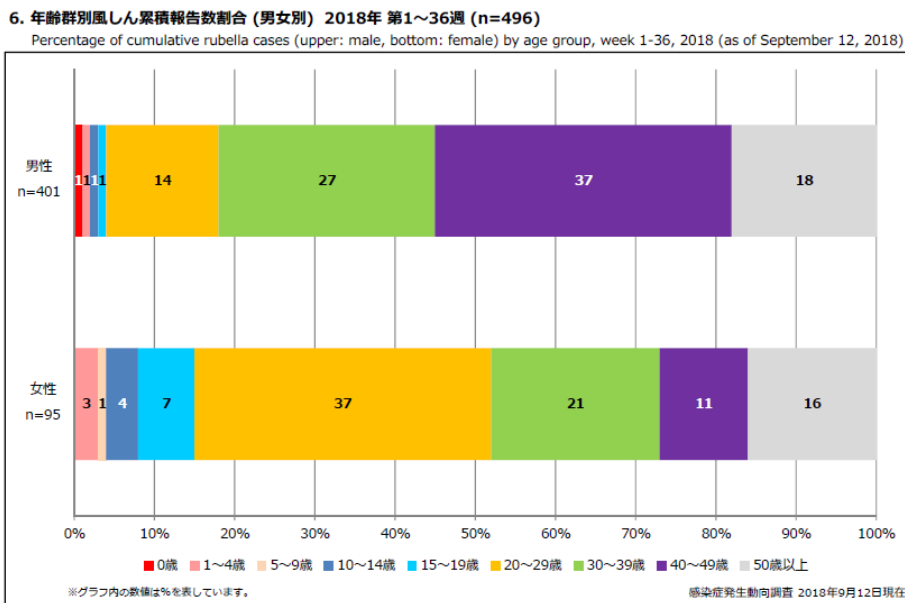


図1、2018年年齢別風疹患者

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係 (平成30(2018)年9月1日時点)

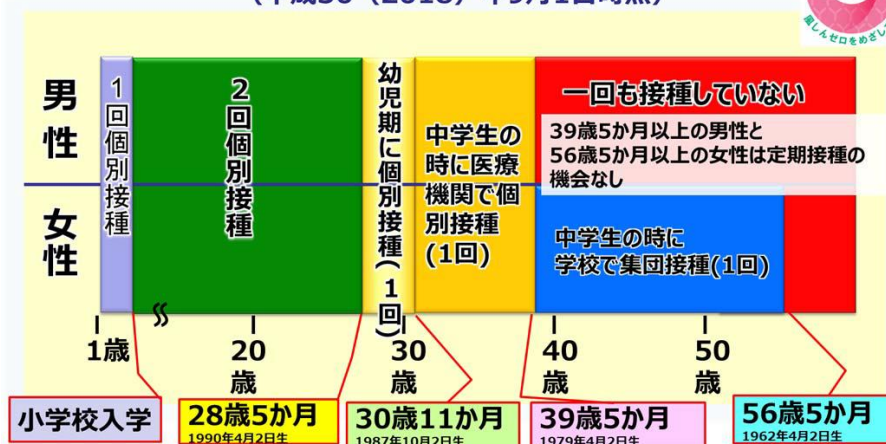


図2. 風疹含有ワクチンの予防接種制度と年齢

**文章・図とも、NID国立感染症研究所のHPから引用しています